

令和 4 年度 (2022 年度)

第 1 回 河川工作物アドバイザー会議

羅臼川の状況 および 今年度の対応について

令和 4 年 7 月 26 日

北海道釧路総合振興局 釧路建設管理部

1. No. 5 床止工の現状



写真 1-1 魚道入口落差 (R3 年 5 月撮影)

No. 5 床止工は、施工後 20 年余りが経過し、融雪出水や幾度の降雨出水により変状を来している。

施工は左岸側に魚道工、右岸側は護床ブロックによる段積み落差工が施工されている。

魚道の一段目の水面落差が 0.6～0.7m となっており、サケマスの遡上障害となっている。

R04.2 に暫定的な落差低減措置として、袋詰根固を敷設した。また No. 5 床止から下流も河床が低下傾向にあり、H28 以降帯工の設置や河道の拡幅を行い、河床高の復元とともに魚類の遡上障害の改善に取り組んでいる。

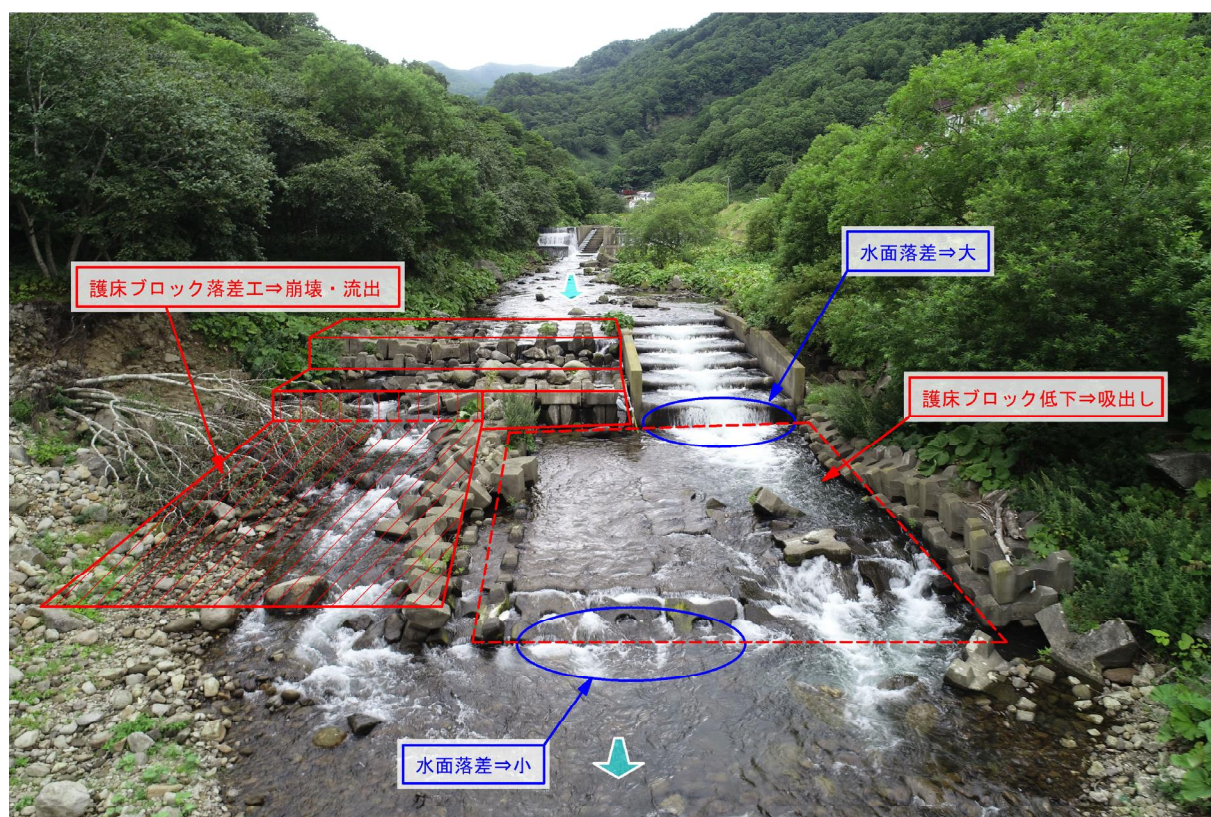


写真 1-2 No. 5 床止工 (R3 年 5 月撮影)

- ・ 右岸側護床ブロックの崩壊・流出
- ・ 魚道下流の護床ブロック低下（吸出し）
- ・ 護床ブロックの低下による魚道工入り口の水面落差拡大
- ・ 護床ブロック下流側の河床洗掘

河床復元させ、さげますの遡上障害を改善させるため、帯工6基の設置、No.4～No.6区間の川幅拡張の計画と施工を同時に進めているところである。

併せてNo.5床止工下流右岸側 狭窄部の河道拡幅を行い、河幅 20m 程度としている。

- X



2

3. 河床高の復元状況

R3年には帯工施工後の土砂堆積による河床高の復元状況についてモニタリング調査を行った。(調査縦断面図を下記に示す。)

下記縦断面図から、帯工周辺の河床高が目標河床高に近づいていることなど、帯工による土砂捕捉効果が確認できた。次年度以降はNo. 4～No. 6帯工の二次施工を行う予定である。

No. 5床止工本体の改修は、河床高の復元状況を踏まえ、検討を行う。このために必要な河床高のモニタリング継続する予定である。

なお、当面の遡上経路の確保は、暫定的対策にて対応する。

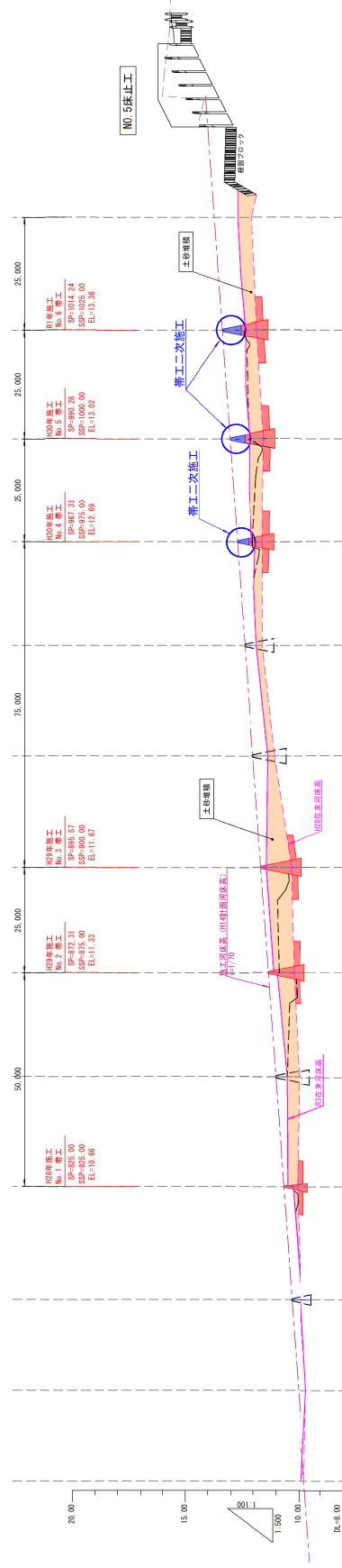


図 3-1 モニタリング調査縦断面図 (土砂捕捉状況)

4. 今年度の対応

今年度は、以下の項目について対応する予定である。

- ① モニタリング（測量調査）：帯工土砂捕捉状況および河床高復元度合いの把握
- ② 産卵床調査：さけますの産卵床分布、遡上状況確認を継続する。
- ③ 魚道の補修（暫定的な魚道対応）
魚道入口に設置する袋詰玉石について、積みなおし・増設を含めた対応を行う。

④ “ニジマス放流禁止” 立て看板の設置

下流域でニジマスの生息が確認されており、今後の分布拡大が懸念されることから、魚の放流禁止を呼び掛けることを目的とし、羅臼町役場と共同で看板の設置を行う。

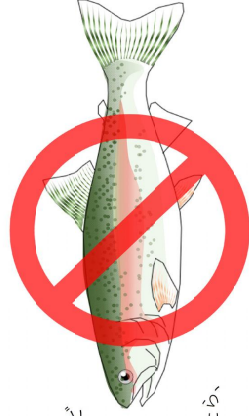
設置箇所としては、河岸に入りやすい接続路および坂路のある箇所に設置することにより、効果が期待できると考え、以下の箇所を候補としている。（羅臼町と協議予定）

- オジロ橋上流左岸：ウライへの接続路
- 左岸側役場駐車場：駐車場への坂路
- 熊越橋上流左岸：高水敷への坂路
- 熊越橋上流右岸：高水敷への坂路

！外来魚の放流禁止！

羅臼川は世界遺産地域につながる回廊です！

外来種が増えると在来種の生息を脅かすことになります。
世界遺産地域の生態系を守るため流域外の魚を持ち込まないよう、ご理解ご協力をお願いいたします。



- ニジマス
- ブラウントラウト など

お気づきの点がございましたら、
下記までご連絡下さい。

羅臼町役場 〇〇〇〇課 0153-00-0000
釧路建設管理部 中標津出張所 0153-72-3213

図 4-1 立て看板イメージ

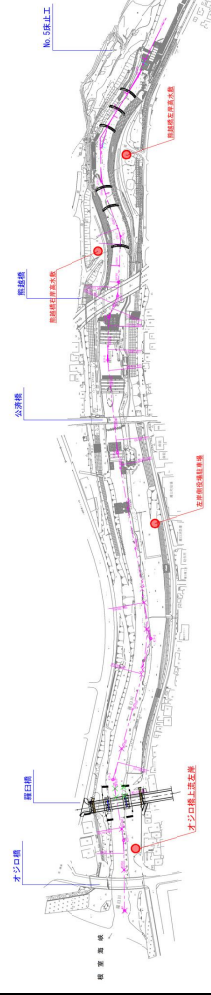


図 4-2 立て看板候補箇所

5. 今後に向けて

帯工周辺の河床高のモニタリングを継続しつつ、その動向を踏まえて左岸の利用状況も含め、河床の安定化に向けた検討を進める。

6. 19号砂防堰堤

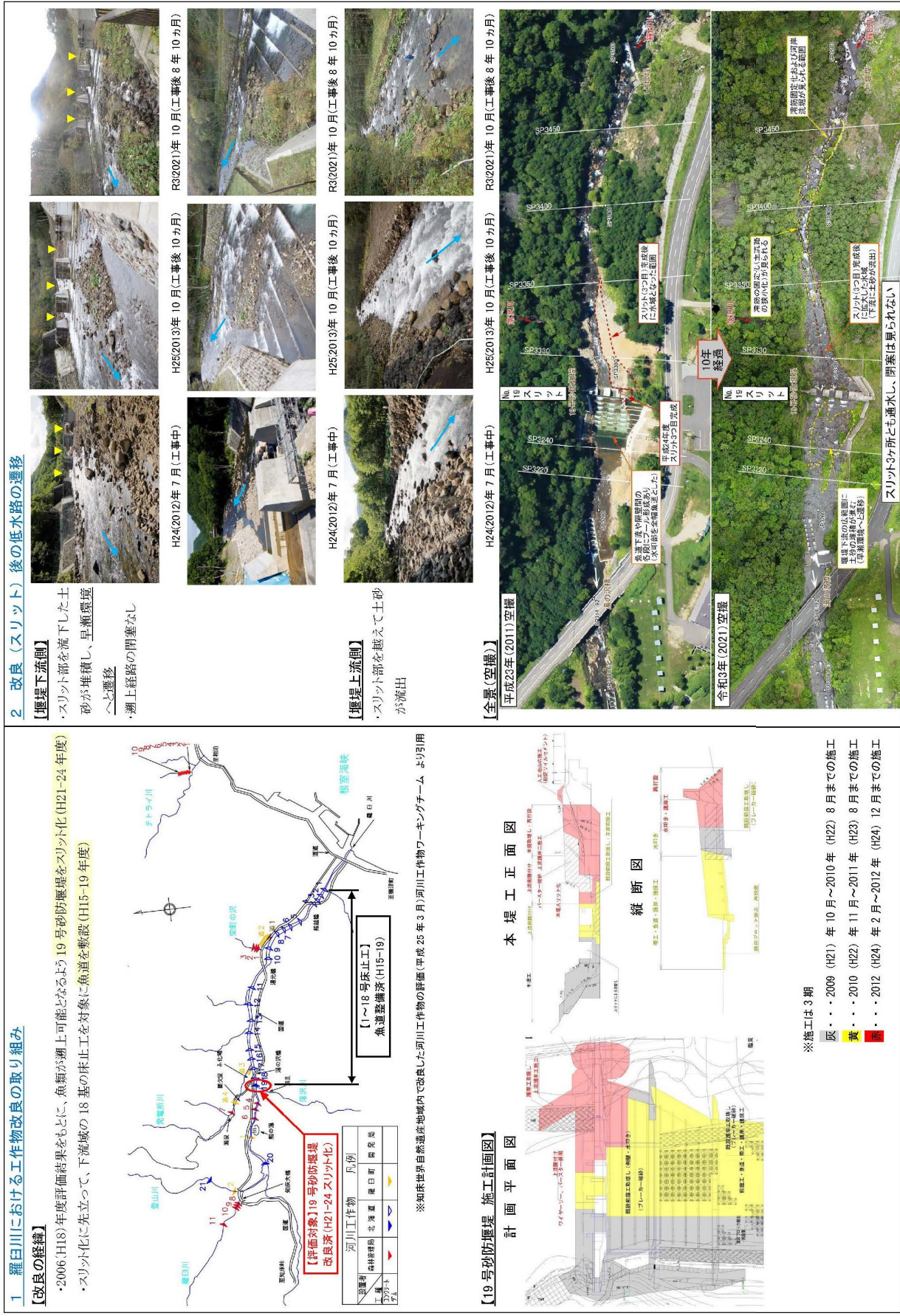


図 6-1 19号砂防堰堤説明図